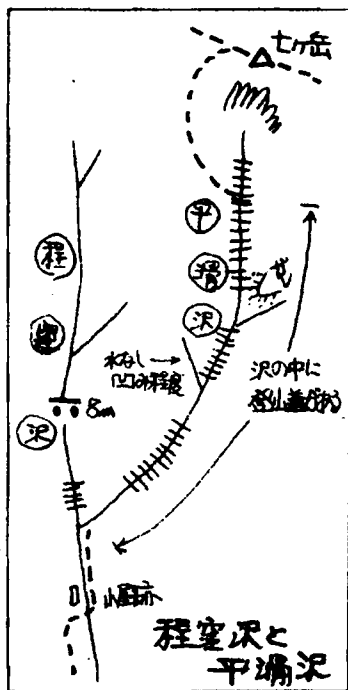


にもならず、左岸にみえる元山避難小屋に出て本流の方を目指すことにする。

枝沢をつめ、踏跡をたどって、1220mの平坦な台地上の小屋に到着。ここは元山小中学校の跡で、廃校の後避難小屋としたもののようである。しかし、現在はすっかり荒れてしまっていて、小屋としては使用不可能なので注意。ここからは踏跡をたどって白糸の滝の上に出る。この辺りは鯨山の住宅が建ち並んでいたが、閉山後、テレビドラマのロケで燃やしてしまったそうである。

白糸の滝の上で再び沢に入るが、ここは水ならぬ湯が流れている。沼尻温泉の湯元がすぐ上にあるせいである。ミニゴルジュとなり、2m程の滝がかかる。その前は大きなプール状となっていて、相当の深さである。少し戻って右岸を登り、登山道に出る。



ここで小休止。あとは登山道から見えるナメ滝までつめて、下山する。(記・)

[タイム] 硫黄川出合(8:40)→二俣(10:50)→白糸の滝(11:10)→二俣(11:30)→左俣遊行終了(12:20)→元山避難小屋(12:55)→白糸の滝(13:10)→遊行終了(13:40)

### 七ヶ岳・程窪沢

1983年5月15日

E

前夜は登山口の標識のある所に車を止めて、その中で眠った。今朝は割合早く目がさめてしまい、4:55

出発となる。1/2.5万地図とは少し林道の様子が違うようだが、とにかく標識通りに進んで、5:40程窪沢に到着。

まだ5月中旬ということもあって、水は相当に冷たい。平凡な河原が30分程続いて、ようやくF1 8mとなる。しかし滝は続かず、まもなくブッシュがかぶってくる。目立つのはヤマウドばかり。でも今回の山行の目的はこれである。

6:15水も少なくなってきたので、引き返すことにする。(記・橋内憲治)

[タイム] 登山口(4:55)→程窪沢出合(5:50)→遊行終了(6:15)

## 七ヶ岳・平滑沢

1983年5月15日

L

平滑沢は、名のごとく、入って5分程でナメが出てきて、最後までナメばかりの沢だった。登山道も沢の中にあり(水はほとんど流れていない)、特に沢登りという感じもなしに、山頂下までつめあげてしまった。

沢の両側には太いゼンマイが顔を見せている。今回は山菜をあてにしてきたので、大きなアタックザック。のんびりと山菜を採りながらナメをつめてゆく。ナメの傾斜はだんだんときつくなり、山頂直下へ。あとは岩壁となっている。立木を利用して登れないこともないようだが、重い山菜ザックを背負っている身ではと自重してもどる。

(記)

[タイム] 平滑沢出合(7:15)→遡行終了(9:15)

## 朝日連峰ゴロピツ沢

1983年6月11~12日

L

6月11日 福島(19:00)→日暮沢小屋(22:25)

車で出発。山形より寒河江にぬける。日暮沢小屋泊り。

6月12日 日暮沢小屋(5:00)→ゴロピツ沢出合(5:20)→30mの滝(5:40)→登山道(9:00, 9:20)→清太岩山(10:10)→日暮沢小屋(12:05, 13:10)→福島

5時出発。小屋の手前の日暮沢に入る。そこから約20分、滝もなにも出てこないうちにゴロピツ沢に出会う。

ここから沢にそって踏跡が続き、沢は小滝とナメが交互に出てくる。小滝は、ほとんどが登れるが、朝も早く肌寒いので、沢のわきの踏跡を使ってぬれないように登る。

やがて、沢が大きく右にカーブする。このあたりからゼンマイ・ウド・ウルイなどの山菜が出てくる。まもなく、1/2.5万円にも出ている大きな滝が現われる。高さは30m程はあ

